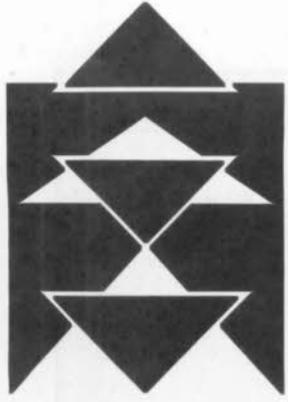


1995

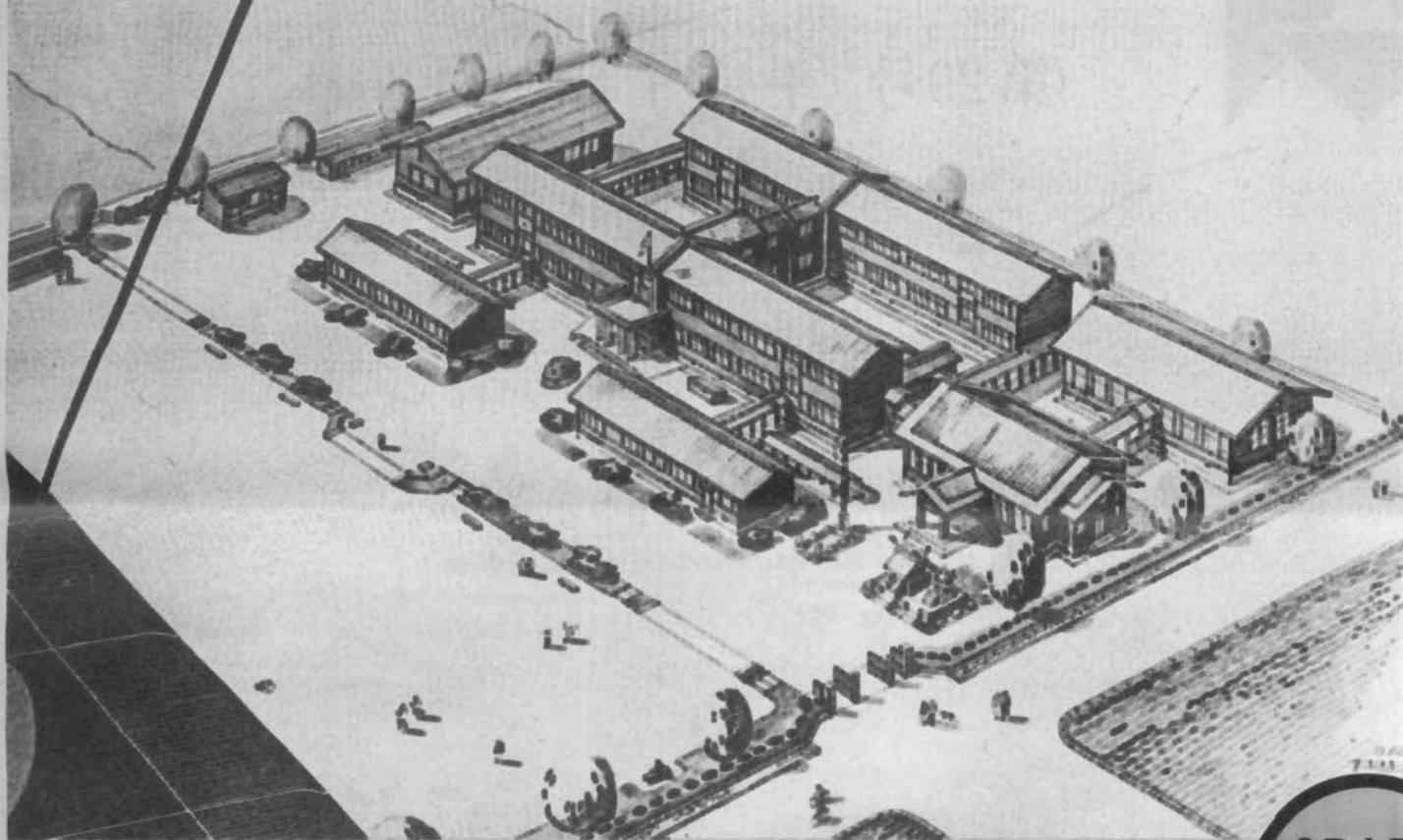


# 高崎高校同窓会報

第29号 平成7年11月30日

発行所  
高崎高校同窓会  
〒370  
高崎市八千代町  
2-4-1  
TEL  
0273-24-0074





GRAPH FILE

◎表紙の写真  
地鎮祭（上）  
昭和13年（1938）竣工間近の乗附校舎（下）

◎表紙裏の写真  
乗附校舎完成予想の鳥瞰図  
写真提供／岩山 猛（49回）

手狭となった上和田校舎より、乗附（現在地）に移転された。当時、周囲には何もなく、広大な土地を有効的に使った校舎配置がとられた。周辺環境を含め、現在の乗附町の基礎として現在に至っている。

高高同窓会報 No.29 目次

あいさつ

創立百周年に向けて……………同窓会会長 小山 禧一

ごあいさつ……………校長 古川 功

若い後輩達を宜しく……………PTA会長 廣田誠四郎

五十年の星霜……………同窓会副会長 須永 孝

●卒業生の作品紹介「無罪弁論集」……………高橋 清一

論壇

「わだつみ会」とその活動……………大塚 雅彦

特別寄稿

若き日の体験……………安中 九平

名宰相の一つの形……………白田 柳二

「関東大会今昔」……………石井 清一

周年事業をふりかえる②

70周年より90周年まで……………

同窓会だより

51期記念誌「秀嶺様名案に」……………田中 順

もっと交流を深いものに……………山口 正敏

褒賞・叙勲者紹介……………福田起夫先生をしのぶ 小山 禧一

山本政治は生きつづける……………松沢 睦

高崎高校の変貌

家庭科の履修と家庭科棟の完成……………

校舎全面改築……………

六五分授業の導入……………

母校だより

各部の活躍……………

各部の活動……………

翠糖文庫……………

翠糖祭・高前定期戦……………

最近の進学状況について……………

人事異動……………

同窓会会計報告……………

新年総会へのお誘い……………

事務局だより・編集後記……………

20 20 20 19 19 18 17 15 15

14 13 13 12 12 12

10 9 8 7

6

5 5 4 4 3



# 創立百周年に向けて

同窓会会長 小山 禧一

この夏は冷夏になるだろうという予報が見事にはずれ、昨年以上の百年ぶりという記録的な猛暑の夏になりましたが、同窓の諸兄におかれましては相変わらずご健勝のこととお慶び申し上げます。今年もまた、各方面における同窓の諸兄のご活躍を耳にいたします機会が多いのでありますが、同窓会といたしましても誠に心強く御同慶の至りであります。

がしかし、悲しいお便りも耳にいたしました。それは皆様もすでにご承知のとおり、山本富雄前農林水産大臣と福田赳夫元内閣総理大臣という本同窓会にとりましても貴重な先輩があいついでお亡くなりになられたことです。お二人の政治家には、まだまだ元気で頑張っていたいただきたいと願っております。誠に残念としか申し上げようもございませんが、お二人の先輩の業績に深く敬意を表するとともに、この紙面をお借りいたしましてご冥福お祈り申し上げます。そしてまた後に続く同窓諸兄の今後のますますのご活躍を願う次第であります。

皆様も新聞等でご覧になっていると存じますが、現役の高高生の学業・運動の両面にわたる活躍には目を見張るものがございます。この輝かしい成

果の蔭には、申すまでもございせんが限られた条件の中で、精一杯生徒のご指導にあたられておられる先生方のご苦勞があります。この場をお借りいたしまして、母校の諸先生方には深く感謝申し上げる次第であります。

さて、母校高中・高高の百周年記念日がいよいよあと一年六ヵ月後に近付いてまいりました。一九九七年（平成九年）五月二十日がその記念式典のときであります。記念事業につきましてはすでにさまざまなお知らせしてありますが、もう一度繰り返させていただきますと次の三点になります。

- 一、同窓会館（仮称）の建設
- 二、高中・高高百年史の発刊
- 三、記念式典・祝賀会の挙行

「同窓会館（仮称）」は、一部二階建、定員四百名（一学年相当数）、全席固定式の県下の高校では他に例を見ないすぐれた文化施設であります。また一階には他に同窓会の資料室も作られ、貴重な資料等が二十一世紀に向けて大切に保管されます。ちなみに皆様からお寄せいただきますご寄附はすべてこの会館の建設費にあてられます。

「高中・高高百年史」は上下二巻に分かれておりまして、上巻はいわゆる編年体の通史、下巻は同窓生の中で活躍をされた先輩の人物史で四十数名の先輩について執筆される予定です。

「記念式典」は母校の体育館で行われる予定です。また「祝賀会」は会場を市内のホテルに移して開催される予定です。

こうして母校の生誕百年をお祝いする記念事業は着々と準備が進んでおりますが、何にもまして大切なものは資金の裏付けであります。しかしこれも、横田英一募金委員長を中心といたしまして、各期の募金委員の方々がさまざまな工夫をこらし、目標達成に邁進しておられると伺っております。厳しい諸般のご事情の中にもかかわらず、同窓の諸兄には暖かいご支援とご理解を賜り誠に感謝の言葉もありません。

高中・高高で過ごした私たちの十代には、人それぞれにまたさまざまな思いもおありでしょう。しかしその思い出多き十代が、今の自分の核をなしていることもまた事実であり、母校をなつかしむ心は一つです。その心が百周年記念事業の原動力です。どうか大勢の同窓諸兄のより一層のご理解とご協力を賜りまして母校の百歳を盛大にお祝いいたいと願う次第であります。

最後となりましたが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げますとともに、同窓諸兄の益々のご発展とご健康をご祈念申し上げます。挨拶といたします。

（美峰酒類取締役社長 42回）



## いあごせり

校長 古川 功

四月、堀口前校長の後任として、輝かしい歴史と伝統を誇る本校に赴任して八カ月を経たところでありますが、この間、同窓会の皆様にはまことに暖かい御支援・御協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。なかんずく再来年に迫る創立百周年に寄せての絶大な御尽力には筆舌に尽くせぬ深い感謝と感銘を心にかけているところであり、重ねて衷心より御礼を申し上げます。

お陰様をもちまして母校は着実な発展を続けており、本年度は大規模改修年次計画(予定)の初年度として県当局の御高配により、七月末に管理棟校舎の全面改築改装工事に着工し、この十月に竣功をみる事ができました。生徒全員も協力して棟内のおびただしい備品、機器、書籍、所蔵品を仮搬出再搬入する汗の仕事をかけて出て、新しい学校づくりへの熱意に燃える姿をみせておりました。

また、本誌所収のとおり、平成七年の進路状況は、国公立私立の難関大を含め進路達成率八十八%を超える題目

の成果をあげることができました。更に今年度の県総体でも昨年に続いて総合第三位を獲得し、鳥取インターハイに出場した水泳部はチーム種目、個人種目のいずれにも自己ベストを更新する成績を残しました。学習面でも、県下に先駆けて六十五分授業体制を導入するなど、高高伝統の進取精進の気風を展開しつつあるところであります。今後とも、本校職員としての熱意と使命感をもって生徒の切磋琢磨を推奨し、「あたり前のことをあたり前に遂行する」高生を育んで参ろうと存じます。

一方、御承知のとおり、18才年令の急減は年と共に加速化し、県教育委員会の諸施策もそれに見合った大きな変容改革を見せつつあります。新しい単位制高校の発足、総合高校の誕生、学校間連携の促進、学級減や共学化への志向、学区や入試方法の改善、新教育課程実施に伴う特色化の推進等々、高校教育に関わる変化はかつてない規模と速さで推進されて来ております。

本校もまたその例外ではあり得ませんが、私共は、本校に課せられた地域の期待や不変の使命への認識を深め、本校にふさわしい進取精進の姿勢を堅持し、大胆かつ柔軟にこれらへの諸対応をはかって参る所存であります。

同窓会をはじめとする関係各機関・各位の一層の御理解御協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、母校同窓会のみならずの御発展と会員皆様への御健勝を心よりお祈り申し上げます。ごあいさついたします。



## 若い後輩達を宜しく

PTA会長 廣田 誠四郎

創立百周年を間近に控えた今、高高PTAのお手伝い出来る事を光栄に感じております。九十五年新年総会では皆様に大変お世話になり有り難うございました。幹事の一人として紙上をお借りして改めて御礼申し上げます。

それでは学校・PTAの事をご報告申し上げます。ご承知の事とは思いますがここ数年の母校の現役合格率は爆発的な上昇をみております。県内ライバル校の前高、太田高に一年の共通テストでは水をあげられて三位の成績が二年の後半では追いつき三年では引き離してのゴール。現役合格の高率に他校はただ驚くばかり。今や「指導が厳しい」の声も一部出る始末。県内トッ

プの成績は子供達の努力は当然だが、指導の先生方にその基をみる事が出来る。先生方が子供達以上に勉強している。如何にいい教師・指導者になるか学年毎に真剣である。これが学業だけに、とどまらない。クラブ活動にも及ぼす影響は何と表現したら良いのだろうか。毎年文化部・運動部とも全国大会出場、関東へも多くのクラブが出場し活躍している。「文武両道」の範を示してくれる「高生の生徒と教師」に注目し更に声援を頂ければ幸いです。

PTAは実行委員会が地区役員・正副学年委員長・本部役員で構成、運営されています。事業委員会は年三回のマナーアップ

運動(通学時の交通安全運動が主)に  
取り組む。金井元校長が当時呼びかけ  
て全県下のPTA活動の一つになった。  
セミナー委員会は七月に本校美術担  
当の井田先生のお話。生徒投票の好感  
度ナンバーワン先生の話に母親も納得。  
十月には古川雅子医師の親子間の考  
方、生き方のズレ等多くの問題提起を  
して頂けた。第三回は進学セミナー。  
セミナーは全て父母対象です。

広報委員会は会報「爽風」に教職員  
全員紹介をし、特に新入生の親に大好  
評。「爽風」は毎学期一回発行予定。  
学年委員会は各学年主任・担任と密



## 五十年の星霜

同窓会副会長 須永 孝

愈々高崎高校創立一〇〇周年も、間  
近になってまいりました。関係各位の  
御厚情に、衷心より感謝申し上げます。

私達四十七期は、高崎中学最後の卒  
業生でした。

私達が中学五年生の時が、昭和二十  
二年、卒業が昭和二十三年春で、昭和  
二十二年が高中創立五十周年の年にあ

な連絡のもと生徒指導・進路指導等で  
進学率上昇の一翼を担っています。

本部と言えは教師陣と生徒達の活躍  
を静かに黙って見ている「応援団本部」  
でしょうか。因みに本部の六十二期加  
藤勝二、六十四期高見沢滋、六十五期  
梅沢徹、六十七期串田紀之君と私、全  
員がOB。七十期の矢島哲雄先生と優  
秀な女性五名に指揮を委ねて運営して  
おります。

最後に先輩の皆様には社会の先達と  
して若い後輩達のご指導をお願い申し  
上げ、ご挨拶と致します。

(広田住宅センター社長 64回)

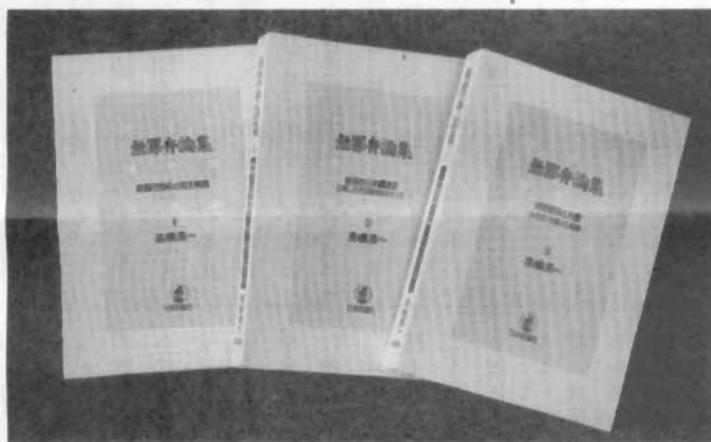
たっておりました。

当時は食い物も充分でなく、腹をへ  
らしての毎日でしたが、生徒で五十周  
年を祝おうという話もあったのでした。  
五十周年記念行事実行委員会が出来て、  
たまたま私とその責任者になったので  
すが、関西への修学旅行も、急なイン  
フレで積立金が足りなくて中止になる

卒業生の作品紹介 11

## 「無罪弁論集」の発刊

高橋 清一



弁護活動に全力を傾け、手応えも十分あった後の無罪判決。被告人  
の深い安堵感。ともに味わう、こみあげてくる喜び。まさに弁護士冥  
利につきるものです。

私は、刑事弁護の原点は、誤った訴追をされた被告人の人権を救済  
するために、検察官と対決しつつ、裁判官を説得する過程だと思っ  
ています。本書は、若き法曹にささげるものです。(弁護士 51回)

様な時代で、ファイヤーストームを行  
うとか、その他種々の散発的な行事に  
なっていました。

それから十年、六十周年の記念式典  
が、今回同窓会館(仮称)が出来る場  
所にあった旧講堂で行われ、その折に  
「上州の三つの山は…」の校歌が発表  
されたのですが、「翠巒」をいとおし

んだ京浜同窓会の先輩が、号泣され  
たのが、今でも記憶から抜けません。  
五十年の星霜も、過ぎてみれば短い  
ものです。

古い伝統の上に、新しいものを…  
同窓会各位の御健勝を心より御祈り申  
し上げます。

(梅玉堂代表取締役 47回)

わだつみ会は略称または通称であって、正確な名称は日本戦没学生記念会である。会の成立の経緯や今日迄の活動を簡単に紹介しよう。

今次大戦中、戦局の激化に伴い政府は勅令で一九四一年(昭十六)大学生等の修業年限を短縮し、第一回繰り上げ卒業を決定、翌十七年第二回、十八年第三回と続けた(私はこの第三回組で、十九年三月卒業の筈を半年繰り上げて十八年九月、卒業させられた)。十八年十月二日には更に在校生の徴兵延期(猶予)の停止が決定された。かくて同月二十一日雨の神宮外苑競技場で「出陣学徒壮行会」が開かれ、東京や近郊

### 論壇

## 「わだつみ会」とその活動



大塚 雅彦

の大学・高専学徒が分列行進をしたがその数は明確でない。大体十万人をちょっと超える位であったらしい。その中、出征して戦没した学生兵の正確な数を各大学は今もってつかんで居らず、最近慶応大学で関係者の努力により、出身戦没学生一、五二九人の名簿が完成したことを、新聞が報じたのが珍しい位である。

戦後一九四七年五月、東大戦没学生の手記が「はるかなる山河に」の書名で東大協組出版部から刊行され、一九四九年十月には他大学の学生をも加えた「きけわだつみのこえ」日本戦没学生の手記がやはり同所から刊行された。翌

一九五〇年四月、同書印税の一部を基金に、わだつみ会が設立された(理事長柳田謙十郎)。日本最初の平和団体で、学生の行動団体の性格が強かった。同年六月、会も製作に加わった映画「きけわだつみのこえ」(関川秀雄監督・東横(東映)映画)が封切り公開され、反戦映画として注目された。一九五八年八月、会は都合で解散したが、翌一九五九年(昭三十四年)六月、戦中世代のイニシアチヴのもと、戦後世代の積極的参加を得て、第二次わだつみ会が発足した。理事長阿部知二、事務局長山下肇。阿部のあと中村克郎を経て、現在の理事長は法政大

学講師で、最近ランズマンの衝撃的な著書「ショーア」の翻訳書を刊行した高橋武智であり、事務局長は山下のあと渡辺清が継いだ。彼の死後、梅崎三を経て、現在事務局長は置かれていない。私は発足後間もなく入会、現在も理事を続けている。会は戦没学生

の遺志の継承、戦争体験の思想化、世代間の交流協力を通しての平和への寄与等を課題として、時代の変化に即応してその都度テーマ設定もしながら、党派的政治活動を禁欲しつつ不戦平和活動を息長く続けてきた。会員は戦中派の戦争体験者という古い世代も居れば、戦後世代のさまざまな社会人や若い学生、それに戦没学生の遺族(始めの頃は父母や妻等が多かったが、その後それらの人々の高齢化や逝去等が顕著となり、最近では戦没者の兄弟や甥姪等)等で構成されている。

会は四十年間近い長い歴史を経ていて、その

活動も多岐多彩であり、短い文章では書ききれないので(機関誌「わだつみのこえ」最近号八第百号・一九九五年八月十五日刊)の巻末に、発足から現在に至る「行事に見るわだつみ会の歩み」があり一覽できる、恒常的に行っている事業と、その時々々の社会情勢に応じて力を入れた活動とに便宜上大別して、展望しよう。

前者で特筆すべきは機関誌「わだつみのこえ」発行と、年中行事的な毎年開く二つの集会とである。機関誌は一九五九年十一月に創刊号を出して以来、毎年数回発行し、「敗戦の日」の「八・一五集会」と十二月初めに催す「不戦の集い」の二つの結果と内容を収録するのは勿論、会員の論文、研究、座談会、戦争と平和に関する本の書評や映画評、各地支部や学生サークル等の動きなどを載せている。前記二つの毎年の集会は新聞等に公示して公開で、会員の他にゲストを講師として招いたり、一般の参加者にも参加してもらって熱心な討論会、シンポジウム、座談会等を開いている。最近では学生や若い人達の参加が急増しているのは心強い。機関誌等では意識的に時の緊急課題を何号か特集して追求をしたことがあり、例えば一九六〇年代後半以降の「良心的兵役拒否」研究、七〇年代初期からの実に十一回にわたる「天皇問題特集」号による天皇・天皇制の検討等が反響を呼んだ。前者は阿部知二「良心的兵役拒否の思想」(岩波新書)に、後者は会編さんの「天皇制は問いつづける」(筑摩書房)等に結実した。

時々の動きでは、初期の頃は「遺族の集い」を一九八〇年頃から数回催したり、「きけわだつみのこえ」に遺稿が収録されている戦没学徒の遺族宅を何回か訪問し、募参したり遺族と語り合ったりした。一九六四年には「平和への遺書展」を銀座・松屋デパートで開催した。また、若人や学生への戦争体験の伝達と思想的継承を計るべく学生セミナーを何回も行った。全国

の諸大学の「学生わだつみ会」に常任理事等が講演に赴いて討論や映画上映(「きけわだつみのこえ」「ひめゆりの塔」その他)などを続けている。「靖国神社法案」廃絶を願う声明(一九七四)、昭和天皇の死去と代替わりをささみ、天皇と天皇制の戦争責任を問う声明(一九八八(八九)、湾岸戦争に関する「まず交戦国からの離脱を」声明(一九九二)、自衛隊海外派遣への抗議声明(一九九二)等は、時の問題に対する会の意思表示であった。最近では学徒出陣五十周年にあたって「わだつみのこえは今なにを求めるか」「派兵時代の今こそわだつみの声に聴こう」(一九九三)、「戦没者は、平和の礎か」(一九九四)等の声明やアピール等も同様の活動である。更に九三年に会編さんに成る「学徒出陣」(岩波書店)を刊行し、学徒出陣五十周年を記念するさまざまな行事の意義を世に問い、本年(一九九五)は「敗戦五十年目の決意」声明、会が協力した新版の映画「きけわだつみのこえ」(東映・出目昌伸監督)の封切上映による、特に若き世代への視覚を通じての戦争認識のうったえ、会場に入りきれない程の人々(特に若い学生達)が溢れた恒例の八・一五集会での、今次大戦が侵略戦争であったことや戦後処理が不十分であったという認識に立つ

熱烈な討論や、あらたなる不戦の誓い等で、会の活動方針やこれからの取り組むべき問題が更に強調された。会が努力してきた戦争体験の思想化や、戦争というものの実体を知らない若い世代に戦争の愚かさや平和の尊さを伝えてゆくのは、容易なことではない。わだつみ会の前途は多難ではあるが停滞は許されないのであろう。

(白百合女子大非常勤講師 38回)

\*編集註/筆者は一九四四年召集を受け、平壤でソ連軍の捕虜となり、満州に共産八路軍の捕虜として移管されたのち、一九四六年帰国。



左・安中九平 右・河野実(36回)

◆特別寄稿

# 若き日の体験



安中 九平

場へ、そして、空輸機を受領、編隊で離陸、レバ全開で上昇中に、突然エンジンが停止墜落した。最早これまでかと思つたその瞬間のことであつた。恐怖心は急に消え去り一転してあきらめの精神状態へと変わつて行つた。その一瞬であつて来た絶てが、実に鮮明な「走馬燈」となつて、脳裏を駆け抜けて行つた。それは、言葉では到底表現できない不思議な現象であつた。走馬燈に写し出されたものは、古里に居る家族全員の顔であつた。機関停止、そして墜落、失神までの瞬時に体験した不思議な現象であつた。幸いにも、緩衝物があつた為、地面への激突だけはまぬかれた。小雨降る晩秋の夕暮れ時の事故ではあつたが、救援の方のおかげで一命をとりとめることができたのは、本当に奇跡と云うほかはない。

昭和二十年四月二十九日、特攻隊員の発令を受けた。以来、磐城の太平洋上で、払暁薄暮の戦艦攻撃訓練の毎日であつた。発令以後のしばらくは、時として心の葛藤に悩むこともあつた。そして何時も厚い壁に向かつて対峙している様な精神状態の日が続いた。如何にして自分の生涯に悔いを残さないようにすべきかと、心の整理に一日一日が過ぎて行つた。

思議な現象であつた。走馬燈に写し出されたものは、古里に居る家族全員の顔であつた。機関停止、そして墜落、失神までの瞬時に体験した不思議な現象であつた。幸いにも、緩衝物があつた為、地面への激突だけはまぬかれた。小雨降る晩秋の夕暮れ時の事故ではあつたが、救援の方のおかげで一命をとりとめることができたのは、本当に奇跡と云うほかはない。

七月二十七日、突然米軍艦載機の猛爆を受け、私の搭乗機は大破し、出撃不能となつてしまひ、代機を待つていゝうちに八月十五日の終戦を迎えてしまつた。

放心の日か何日か続いた。何たる神の悪戯か！人間の運命の不思議さを、この時ほど強烈に感じたことはない。

戦後間もなく、半身癱瘓の重病を患つたが、若かりし頃巡り合ったこの様な貴重な体験が、心の支えとなつて、今の自分があるような気がしてならない。

誰にも語つたことのない、遠い若き日の私の体験である。(無職 37回)

誰にも語つたことのない、遠い若き日の私の体験である。(無職 37回)

ここ上和田の地に、明治、大正、昭和と、四十余年の間、立派な若人達を育ててくれた歴史ある学舎の最後の卒業生が、私達第三十七回生である。前年十一月に行われた、乗附での新校舎の地鎮祭に参列した記憶がある。当時付近一帯は、一面桑畑で、近くには広大な陸軍練兵場の草原があつた。市街地からは大部離れており、なんでこんな不便な所に移転するのかと思議に感じた。しかし、今になってみれば、実に環境に恵まれた教育の理想

郷だったのだ。生来、書くことの苦手な私に、執筆依頼の書面がきた。内容を拝見、いろいろ思案してみたが、これと言つた名案も浮かんでこない。そこで、古い話で恐縮だが、七十余年間の私の人生で、二度とないであろうと思われる体験を書くことにした。その一つが、自分自身の「走馬燈」を経験することになったことである。昭和十九年十一月七日、海軍の練習機空輸の命を受け、茨城県下館の飛行

場へ、そして、空輸機を受領、編隊で離陸、レバ全開で上昇中に、突然エンジンが停止墜落した。最早これまでかと思つたその瞬間のことであつた。恐怖心は急に消え去り一転してあきらめの精神状態へと変わつて行つた。その一瞬であつて来た絶てが、実に鮮明な「走馬燈」となつて、脳裏を駆け抜けて行つた。それは、言葉では到底表現できない不思議な現象であつた。走馬燈に写し出されたものは、古里に居る家族全員の顔であつた。機関停止、そして墜落、失神までの瞬時に体験した不思議な現象であつた。幸いにも、緩衝物があつた為、地面への激突だけはまぬかれた。小雨降る晩秋の夕暮れ時の事故ではあつたが、救援の方のおかげで一命をとりとめることができたのは、本当に奇跡と云うほかはない。

誰にも語つたことのない、遠い若き日の私の体験である。(無職 37回)



昭和五十二年三月、日米首脳会議。  
ホワイトハウスバルコニーで

◆特別寄稿

# 名宰相の二つの形



白田 柳二

と文句を  
云われ、  
反響の大  
きさに驚  
いた。  
語り口  
も福田さ

ろ。上京を前にした幹部会議で決意を聞かれ、つい舌がすべて大口をたたいてしまった。「福田さんと中曽根さんを握手させたい」と。しかし、当時は田舎からポツと出の後輩の話など、まともに聞いてもらえないような政治情勢ではない。「口約」の実行を迫って、皮肉る上司の言葉に押され、半年後の師走初めに、清水の舞台から飛び降りる気分で、対談の開催を申し入れたのである。ところが、お二人の返事は意外にも「諾」であった。都道府県会館の貴賓室で、夜七時過ぎから始まった対談も当方の下手な司会を補って、和やかに終始した。「中曽根さん、われわれ上州人は乱世向きだね」という福田さんの述懐が耳に残る。上州の庶民気質は名物のカミナリ、カラッ風で育つせい、カラッとしていて、威勢のいい江戸っ子に似ている。お人好しだが、ケンカっぱやい。対談中の「乱世向き」発言は、この辺の気性を指したのではないか。その後、ある政治記者の紹介で会った、九州のフィクサー的人物から、いきなり「余分なことを…」

んは日ごろ、平易な上州弁をふんだんに挟みこんでいた。高い理念や見識を平易・平明に表現しようと努めていたせいで、これも庶民への気配りだったろう。そういえば、総理を辞任した後福田さんと江崎玲於奈さんの対談を企画したことがある。この時も司会役を務めたが、江崎さんは「当然」と云わんばかりに英語やフランス語を交えて話す。困っているこちらの顔を見た福田さんが、天井を仰ぎながら、そのつど「こういう意味か」「ああいう意味だな」と独り合点してくれる。お陰で恥をかかずに、司会役を無事すませ、ひそかに胸をなで下ろした。

在京中、二度ほど野沢の私邸に招かれ、差して朝食を共にした。帰りには家族全員が玄関まで見送ってくれた。それが、福田家の家風らしい。庶民の魂に響く政治家であった。

九月六日の内閣・自民党葬に寄せて  
「棺蓋い 事定まりて 白露かな」

(元上毛新聞社副社長 47回)

福田さんが、総理に就任した直後、官邸でお会いした。そのときの第一声が「権力の頂点に立って、全権力に抵抗する」であった。意味を解しかね、一瞬、立ちすくんだのを覚えている。やや経って、官僚権力の強大さを官僚として、身を持って体験した人なればこそその発想であり、言葉だ、と気づいた。それだけではない。

戦前、戦後を通じ、歴代首相の中で「庶民宰相」と呼ばれた人が何人かいた。エリート官僚出の福田さんは、そ

ういう意味では当てはまらない。でも「庶民派宰相」と呼ぶことはできるだろう。ひょうひょうとして、目線は低く、世のため庶民のためとあれば百万人といえども「我行かん」の気概を失わなかった。「昭和の黄門」を名乗り、卒寿で亡くなるまで、外交や内政に厳しい注文をつけ続けたゆえんもここにある。

福田さんが総理になる数年前、東京駐在を命じられた。永田町では角福戦争、選挙区では福中戦争真っ盛りのこ

◆特別寄稿

# 「関東大会今昔」



石井 清一

こっている状況下での  
高高柔道部の活躍ぶり  
は特筆ものであろう。

選手として出場した  
昭和三十年代前半、指  
導者役員として参加し  
た四、五十年代、そし

た。しかしその健闘ぶりは見事なもの  
で、見ているうちに久しぶりに青春の  
血がよみがえり胸が熱くなった。本校  
は第三回大会に初出場してから十七回  
目の出場で、しかも今回は五年連続の  
出場であった。関東大会では、十回の  
出場を果たすことに表彰する規定になっ  
ていて、すでに一度受賞しているが二  
回目も近いことであろう。ここ数年來  
の柔道部の充実ぶりは目を見張るもの  
があり、個人でも昨年はインターハイ、  
国体に二十数年ぶりに出場し、県下の  
各大会にも入賞者が続出し、県の強化  
指定選手も多数でていることである。

戦後進駐軍の命令で禁止されていた  
学校柔道が解禁されてまもなく、有志  
の先輩方が大変なご苦労をして復活し  
た高高柔道部は、それから十年余完全  
に本県高校柔道界をリードし、関東は  
もとより全国大会にも出場、国体選手  
も輩出し、高高といえは相手がふるえ  
あがるほどだった。しかし社会情勢の  
変化、とりわけ受験競争の激化の中、  
普通科高校の運動部が軒並み低調をか

て久しぶりに見る今大会、内容も雰囲気  
も大きく変わった。初期の頃は、一  
県出場枠が三校であったのが六校にな  
り、男女の個人戦も加えて大きな大会  
に発展した。また近年の若者の体位の  
向上はすばらしい。かつては体重七十  
五kgといえは大型選手で、ほとんどが  
六十kg台だった。現在では実に倍以上、  
百三十kg台がごろごろしている。まる  
で相撲部屋かプロレスの会場にいる感  
じで、しかも坊主刈の頭でウロウロし  
ているのをみるとなんとも無気味で気  
色わるい。しかしこの雰囲気や和らげ  
ているのが女子の部の登場である。わ  
が高高とは無縁の存在であるが、年々  
予選への参加者も増加し、ユニバーシ  
アード福岡大会の「柔ちゃん」こと田  
村亮子選手に見るように、実力も人気  
も急上昇している。男子選手が柔道の  
本義を忘れ、体力まかせの力くらべに  
終始し、柔道ならぬ「剛道」をくり返  
していることやがて大会の主役は入れ代  
わるのではないかと思う。

(高高柔道部O日会長 群馬県柔道連  
盟副会長 榛名町長 57回)



写真は、昭和三十一年六月、千葉で行われた第四  
回関東大会出場時のもの。前列左より鳥居、生方、  
佐藤、後列左より板井、石井、須藤、岸  
(撮影・前年度主将沼賀勝平)

平成七年六月、第四十三回関東高校  
柔道大会が前橋の県営スポーツセンター  
で開催された。わが高高柔道部も県予  
選の難関を突破して出場するので、後  
輩の活躍や如何にと張り切って応援に  
出かけた。高高は大型化が年々進む他

校選手に比し、体格的には多少見劣り  
はしたが、気力、技ともに充実し、他  
県の強豪選手に一步も譲らず正々堂々  
と大熱戦を展開した。三校による予選  
リーグの結果一勝一分、得点差で決勝  
トーナメントへの進出を惜しくも逃し

# 周年記念事業をふりかえる

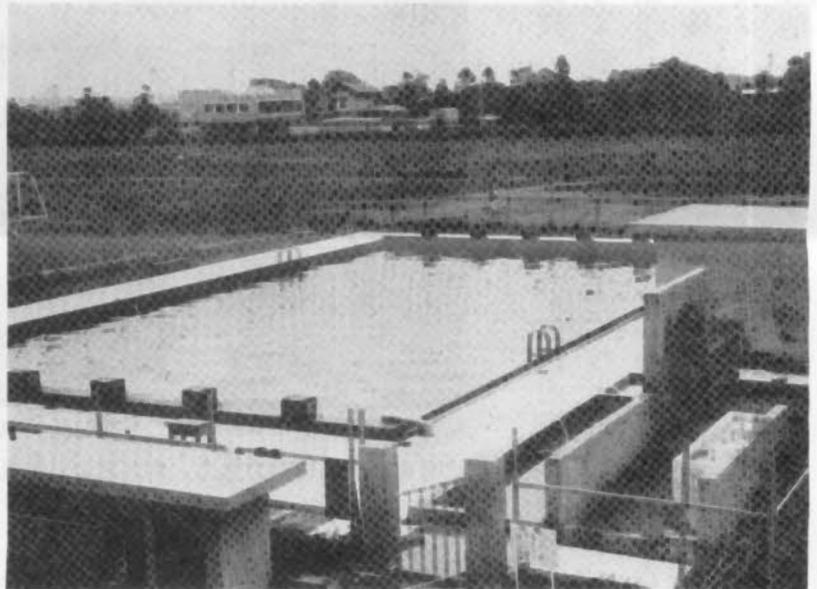
2

70周年より90周年まで――。

より充実した教育環境をつくるために近代化と施設の拡充が行われた時代。

しかし歴史と伝統はさらに深く大きなものとなって、

その時代の高高生の中に宿っている。



プール (70周年)

## 七十周年

昭和四十二年(一九六七)十一月二日に、創立七十周年記念式典は、三年前に完成した体育館において盛大に挙行された。

記念行事としては次の三つの事業が行われた。  
 体育館への渡廊下・プールの浄化装置・便所の水洗化である。すべて生徒が安んじて修養に励むことができるよ



うにとの多くの人々の善意の結晶として造成されたのである。  
 予算計画は次の通りであった。

### 〈予算総額〉 九、八九〇、〇〇〇円

#### (内訳)

県費 三、八九〇、〇〇〇円  
 地元 六、〇〇〇、〇〇〇円

### 〈収入見込〉

県費 三、八九〇、〇〇〇円  
 同窓会 一、〇〇〇、〇〇〇円  
 P T A 三、〇〇〇、〇〇〇円  
 特志寄附 二、〇〇〇、〇〇〇円

### 〈支出予定〉

渡廊下 二、五〇〇、〇〇〇円  
 プール 三、〇九〇、〇〇〇円  
 便所 三、三〇〇、〇〇〇円  
 記念式典 八〇〇、〇〇〇円  
 予備費 二〇〇、〇〇〇円  
 計 九、八九〇、〇〇〇円

## 八十周年

創立八十周年記念式典は、昭和五十三年六月一日、バラの香匂う中、盛大に行われた。

当日の来賓三〇七名に、教職員、在校生を含む一五〇〇余名が、会場の体育館に集合、十時から十一時三十分にはわたり式典が挙行され、続いて十二時より剣道場において祝賀会が開かれた。なお記念の催しとして、東京三洋対慶応大学のラグビー大会が十三時より校庭で展開された。

また記念事業も大事業であった。昭和四十九年に着工された鉄筋新校舎が昭和五十二年に完成したばかりであったが、

- (1) 校庭改修工事  
 (土盛り、給配水設備、芝張り等)
- (2) 天体観測施設の新設  
 (観測ドームならびに直径三十センチの反射望遠鏡)
- (3) 学芸部室棟  
 (鉄筋三階建、学芸部二十二部室)
- (4) 学校史  
 (「高崎高校八十年史」上下二巻と「創立八十周年、高崎高校小史」)

# 九十周年

という大規模な事業が行われた。予算総額は一億円を上回るものであった。

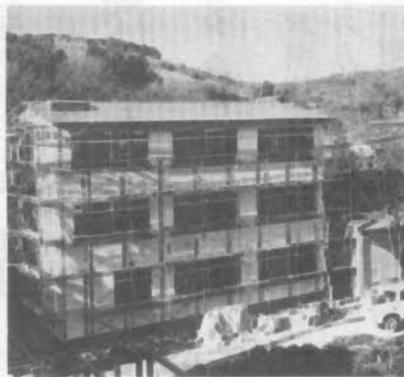
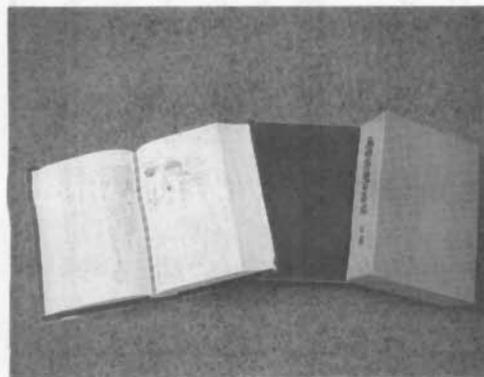
創立九十周年記念式典は、昭和六十二年六月六日、厳粛清楚なうちにみごとに行われた。



校庭改修 (80周年)



天体ドーム (80周年)



学芸部室棟 (80周年)



翠樹会館増改築 (90周年)

会館の増改築であった。

「翠樹会館は、昭和四十六年落成以来、合宿施設としてホームルーム活動、クラブ活動、生徒会活動等多面にわたり数多く利用され、その成果はご存知のとおりですが、最近この翠樹会館の老朽化が目立ってまいりました。創立八十周年記念事業での校内施設の大改修がその後の活躍にはずみをつけましたように、この翠樹会館の増改築により益々の文武両道の精神の高揚を期待し、創立九十周年記念事業として決定

した次第です。」(九十周年記念事業募金趣意書より)

冷暖房完備となった翠樹会館は現在も部活動の合宿や諸会議などに多用されている。

さらに「九十周年小史」を刊行。高の九十年がコンパクトに読みやすくまとめられた。

こうして明治三十年創立以来幾多の記念行事、記念事業が行われてきたが、それらの集大成とも言うべき行事・事

業が、平成九年の「百周年記念式典」であるといえよう。

同窓会館の建設、「百年史」の編纂などの記念事業に賛同し協力していく中で、母校を回顧しまた、母校の更なる発展を祈念したい。

(文責・箕輪 明 70回)

### 51期記念誌 「秀嶺榛名紫に」

田中 順

高中・高高各期の還暦記念誌には、既に先輩の素晴らしい労作が数々ある。標記の還暦記念誌発刊に当たって啓発されたことはいまでもない。

第五十回生として最後の旧制高中に入学し、敗戦後の学制改革の煽りを喰らい価値観の転換・激動も経験した高中生・高生生の母校に対する思い入れは尋常ではない。記念誌については、師恩の高さを感じさせる恩師の玉稿である。故人の御遺族が故人を偲ぶ記述には、懐かしさと無念さとの交錯する。同級生の出稿百二十余編は絶対数としては秀逸であるが、出稿率は四十一・四十二・四十四期に劣る。戦後教育の疎漏さからか、稚拙であっても、六十年を経た人生観が如実に集約されている。正しく珠玉の百二十編である。自惚れになるが、各方面から反響は良好であり装丁が斬新である、物故者に対する配慮、先生方の寄稿が多く印刷文字に変化をつけた、同級生の新旧写真の対比、学校火災等の資料でお褒めをいただけた。残念なことが二、三ある。同級生であっても記念誌を手にするこ



とが出来なかつた者、編集委員であっても創出の苦しみに浸ることが出来なかつた者がいたこと

である。これに対し精根を尽くし、上梓に尽瘁された委員には満腔の感謝の気持ちで一杯である。近現代史百年の後半五十年を自覚して、一端の普遍性を培って生きてきた五十一期生の存在価値とは。将来何をすべきであろうか。それぞれがそれぞれの戦争と平和の体験から社会の縁の下として、市民生活を通じて、何らかの実践行動をしていくことであろう。愛しい思いで記念誌を手にすると思っても来つものかな六十年の感慨一入である。

(田中齒科医院 51回)

### もっと交流を深いものに

翠樟体育会 会長 山口 正敏



翠樟体育会は運動部OBの方々のご努力によって、昭和四十八年に創立されました。会の主な目的は「高崎高校運動部を支援し、会員相互の親睦を図ること」であり、また「OB会の会員同士の親睦と交流を図ることによって、資質の向上とOB会の発展をめざす」ものです。

そして昨今では、それに加えて「歴史の浅い運動部OB会も体育会にできるだけ加入してもらうこと」の必要を痛感しているところですが、いずれにしても、積極的に協力し合うことが不可欠でありますので、皆さまのご協力を仰ぎたいと思っております。また、未組織のクラブをきちん

と組織化してゆくことも課題のひとつです。そのバックアップにつきましても、何とか尽力できないものかと考えているところです。私たちは、生徒たちがのびのびとスポーツを楽しめるようにと、いつも願っています。恒例の定期戦はもちろんのこと、地域の中のスポーツ大会、イベントなどに、運動部の生徒やOBが活躍することは私たちが会の大きな誇りであり、また楽しみでもあるのです。

会としては、在校生の各クラブ同士、または在校生とOBの交流会ができるだけ深められてゆくことを望んでいます。同窓の皆さま方にはより一層のご理解とご協力をお願いしたいと思います。次第です。

(大陸不動産社長 58回)

#### 賞状・叙勲・褒章

- \* 賞状褒章
  - 井草 芳男 (41回) 業務精励
  - 須賀 徹 (45回) 業務精励
- \* 勲三等旭日中綬章
  - 長井 和行 (41回) 保健衛生功勞
- \* 勲三等瑞宝章
  - 市川廣太郎 (42回) 税務行政事務功勞
- \* 勲四等旭日小綬章
  - 田村 光治 (41回) 通産行政事務功勞
- \* 勲四等瑞宝章
  - 小山 禎一 (42回) 酒類業振興功勞
- \* 勲五等瑞宝章
  - 片貝 巖 (37回) 鉄道業務功勞
  - 冨永 秀治 (42回) 測量業振興功勞

## 福田起夫先生をしのぶ

小山 禧一

大切な人を亡くした。最後に言葉を交わしたのは今

年三月の「回顧九十年」出版記念会で、「元気で長生きしてくださいね」と言ったら「ありがとう」と手を握り、「今日は家に寄っていきか」と声をかけてくれた。温かな気遣いを忘れない人だった。

出会ったのは昭和二十七年。大蔵省を辞し、政界に転身するおやじさんが、私の母親の出身が同じ群馬町という縁で私のところへやってきた。おやじさんの名前は全然知らなかったが、ガラガラしたところがないし、なんでこの人が昭電疑獄に巻き込まれたんだろうと不思議だった。結局は後に無罪となったが、この時、今日までずっと共に歩むことになろうとは予感さえ無かった。

当選後、われわれを東京の自宅に招き、奥さんの手作りのカレーをこちそうし、泊めてくれた。カレーのもてなしが続けば、「もうカレーは結構」なんて気安く言える雰囲気があった。政治の話は世間話をしながらも、大上段に構えた話し方なく、言葉の端々から国を、群馬を思う気持ちが感じられるという話術で、私たちは「人間・福田起夫」の魅力に引き込まれていった。



東大卒、大蔵省のエリート

ト官僚出身なのに全然そんな雰囲気を感じさせず、政治家として頂点に上りつめ、国内外に強い影響力を持って少しも変わらなかった。心に壁を作らず、だれと会っても必ず名前呼び、応対する。これが人を引きつけ、大衆的といわれるゆえんだったと思う。

おやじさんにはいろいろな教えられたが、一番の思い出は「権力と財力は足して百」という言葉。政治家になれば権力は自然とついてまわる。「政治家になるものは金を求めてはだめ」と別荘も持たず、清廉潔白を貫いた。これが最大のライバルでもあった田中角栄元首相との決定的な違いといえるだろう。

衆議院議員を辞めたのは平成二年だが、実は昭和六十一年の衆参同日選の前に、私たちに引退を漏らした。「いま辞められては群馬の政界が困る。考え直してほしい」と必死に翻意をお願いしたこともあった。

「福田の前に福田なし。福田の後に福田なし」。私たちの心の支えを無くしたのは痛恨だが、政治というの志を継いでいくこと。福田政治の跡継ぎになる人を精一杯支えることがおやじさんの恩に報いることだと思っている。

(高崎高等学校同窓会会長 42回)

## 山本政治は生きつづける

松沢 睦

本県から初の参議院議長誕生の期待を集めた山本富

雄参議院議員の突然の逝去は、政界に大きな衝撃

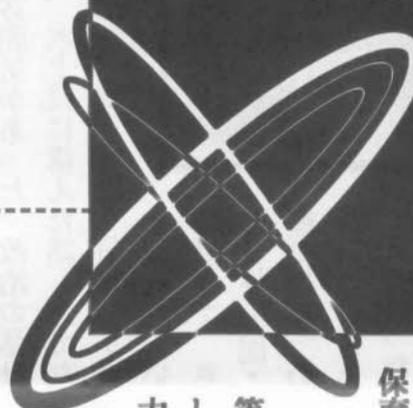


を与えた。雄途半ば痛恨の思いである。同窓各位と共に心より哀悼の誠を捧げたいと思えます。

私が昭和十八年旧制高中に入学したときは、山本先輩は三年生軍人を目指す俊才、キビキビした爽やかな印象でした。四十二年の地方統一選挙で吾妻郡より選出された先輩は、大望をもって着実に県政界に羽ばたいた。政治に取り組む姿勢は、果敢に挑戦する迫力、緻密な行動力、明晰な説得力は山本節と評価され、他の追随を許さず、幅広い県民の支持を集め、県政界をリードした。三十年になる。自民党県連幹事長、清水民間知事誕生、参議院議員三期、農林水産大臣、ガットウルグアイラウンドでの活躍、参議院自民党幹事長、村山内閣誕生での活躍には目を見張るものがあり、次期参議院議長としての地位を確固たるものにしていった。先輩有りし日は、早朝深夜を問わず、その一時一時に自分の全てをかけて走りつづけた。世のため人のため役立つ人生、高高の伝統を履行した一生であった。福田起夫大先輩を師と仰ぎ、良きブレインに恵まれ、理解ある家族に囲まれ、充実した人生であったと思います。志は長男一太君の中に生きつづけることを信じて疑いません。心よりご冥福を祈ります。

(群馬県議員 47回)

# 高崎高校の変貌

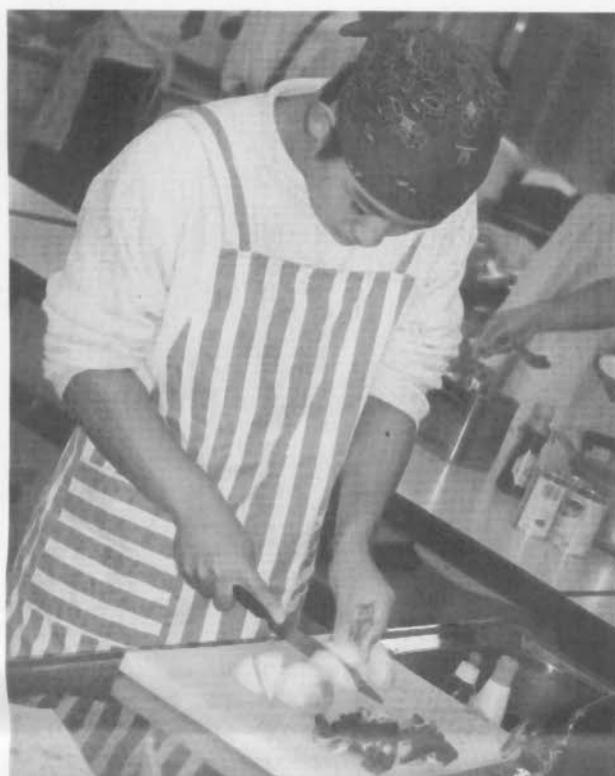


となった。

「男女が協力して家庭を営むために必要な衣食住・家族・保育等に関する基本的な知識と技術を習得すると共に、国際化・情報化・高齢化等社会の変化に適切に対応して主体的に生活できる能力と実践的態度を育てること」を目標にしている。

## 家庭科の履修と家庭科棟の完成

平成元年に改訂された新学習指導要領で、家庭科の履修が男女ともに必修



調理実習風景

## 校舎全面改築

創立百周年をあと二年後に控え、昭和五十二年に完成した現鉄筋校舎の全面改築が始まった。本年度は北校舎の管理棟が夏休みを中心に大改装された。



新築なった家庭科棟

情報化時代を反映してコンピュータ室が新設された他、図書室や職員室などが拡充された。

米年度以降、体育館や南校舎が改築されたり、校門が新しくなるなど、創立百周年を迎える本校の輝かしい伝統にふさわしい偉容になるであろう。

## 六十五分授業の導入

月二回となった学校週五日制に対応して授業時間の確保を図るとともに、より深く密度の濃い充実



校舎改築に協力する生徒たち

## 前橋高 高崎高 新年度から65分授業

週5日制 学習効果の向上狙う

前橋市立前橋高等学校と高崎市の高崎高等学校は、本年度から週5日制に対応して、授業時間を65分に短縮する。これは、従来の50分授業から15分短縮されたものである。この短縮は、授業の密度を高め、学習効果を向上させることを目的としている。また、短縮された時間は、生徒の自主的な学習やグループワークなどに充てられる予定だ。両校は、この取り組みを通じて、生徒の学力向上と個性の育成を目指すとしている。

した授業を目指して本年度より実施されている。従来の一時限五十分を十五分ふやした訳だが、十五分以上の学習効果が出ることを確

信している。

校 時 表	
S H R	8:35~ 8:45
第1校時	8:50~ 9:55
第2校時	10:05~11:10
第3校時	11:20~12:25
第4校時	13:05~14:10
第5校時	14:20~15:25

# 母校だより

## 各部の活躍・活動

になったものと思っています。

### 水泳部



昨年度の学校対抗で総合二位だったこともあり、本年度は関東大会予選から選手はベストコンディションで大会に臨みました。更に、個人では森田(二百m、四百m個人メドレー)がインターハイ出場を狙える位置にいたこともあり、大会では高生が大活躍をしました。

関東大会にはリレー三種目を含め十名の選手が出場し、森田は前記二種目でインターハイ出場権を得ました。更に、四百mメドレーリレー(上岡、森田、皆川、小柏)が予選記録を三秒以上縮める好タイムを出し、インターハイ出場権を得ました。リレーチームは三年生三人が中心、しかも夏季休業中の学習のはざまでの全国大会出場は、文武両道の高生



文武両道の高生の面目躍如たるものがありました。全国大会では高順位は得られませんでしたでしたが、全国に高崎高校の名を知らしめ、後輩たちを含めて多くの周囲の人々の励み

### 陸上部



高校総体陸上の花とも言える男子百mの決勝がスタジアムの観衆の視線を釘付けにした。決勝に残ったメンバーの中には、農大二高のエース吉原と前橋育英のエース林、その間には生まれ羽鳥が立っていた。吉原、林ともに国体出場でリレーで入賞、特に林は少年Bの部で国体準優勝の強豪。誰もが林の優勝かと予想した。しかし高生のエース羽鳥には、自信があった。冬季トレーニングで行った秘密のスクワットである。スタジアムが沈黙に包まれる。観衆も唾をのみ呼吸が止まる。号砲が鳴りスタート。羽鳥がリード二mリード八十mまでリード。ここから吉原、林が追い上げる。いつもはここでスピードが落ちる羽鳥だが落ちない。伸びていく。顔に余裕がある。テープを切る。優勝だ!

本年度の総体では、その他リレー二種目で優勝争いを演じ総合入賞は逃したものの選手達は感動的なレースを展開してくれました。来年度は、総合で農大二高を破る可能性もありますので続けてOBの方々の御声援、御指導を願います。

## SPORTS

### 運動部

- ① 県総合体育大会
- ② 関東大会
- ③ インターハイ予選
- ④ 全国高校総体
- ⑤ 国体
- ⑥ 県新人大会
- ⑦ その他の大会

### 水泳部

① 学校対抗	400mメドレーリレー	5位
	200m個人メドレー	3位
	400m個人メドレー	優勝
② 学校対抗	400mメドレーリレー	2位
	200m個人メドレー	優勝
	400m個人メドレー	優勝
	200m個人メドレー	優勝
	400m個人メドレー	優勝
	200m個人メドレー	優勝
	400m個人メドレー	優勝

## 羽鳥高崎自己新で初制覇

1995年(平成7年)5月

筋力トレの成果が出た  
次はインターハイ出場

スポーツニッポン (平成7年5月21日付)

### 空手部

④ 400mメドレーリレー出場	21位
200m個人メドレー	森田 13位

### テニス部

① 団体	個人シングルス 高見澤圭	ベスト8
	個人ダブルス 高見澤・堀越組	ベスト8
③ 団体	個人シングルス 高見澤圭	ベスト8
	個人シングルス 竹下健太郎	ベスト8
	個人ダブルス 大島・原田組	準優勝
	掘越・飯島組	ベスト8
⑦ サマーチャレンジカップ	Aクラス	大島・原田組 優勝
	Bクラス	竹下・真下組 3位

柔道部

①団体 5位

②ブロック予選 1勝1分

③団体 5位

個人 86kg級 屋敷 延久 2位

95kg級 廣田金次郎 2位

⑤予選 60kg級 長井 祐介 3位

86kg級 長谷川匡基 3位

95kg級 廣田金次郎 3位

⑥団体 5位

⑦県学年別大会

2年の部 長谷川匡基 3位

1年の部 60kg級 長井 祐介 2位

⑦県強化大会

86kg級 屋敷 延久 1位

86kg級 廣田金次郎 2位

95kg級 高橋 絢司 3位

剣道部

①団体 3位

②予選リーグ 高崎3-2浦和

高崎1-4甲府商業

③団体 3位

個人 ベスト8 浅見智宏

ベスト16 藤原純平

⑦白樺旗争奪剣道大会

団体 ベスト8

ラグビー部

①1回戦 高崎67-17高崎工

2回戦 高崎5-71前橋

⑦1年生大会 2回戦 高崎7-22樹徳

バスケットボール部

①第3位 準決勝 高崎57-90前商

③第3位 準決勝 高崎74-84高商

⑦強化大会 第3位 (Aブロック)

準決勝 高崎63-68前商

陸上部

①100m 羽鳥崇文 10秒79 優勝

400mリレー 42秒36 3位

4x400mリレー 3分19秒73 5位

走り高 足立 晋 1m90 5位

三段 北村 武 14m19 3位

円盤 天野大樹 37m06 5位

⑦学校対抗 1部 総合9位(残留)

総合7位

スキー部

①③回転競技

小泉裕介 41位、西村俊哉 43位

①③大回転競技 西村俊哉 54位

⑦新人大会 回転競技

須藤典夫 20位、西村俊哉 21位

⑦新人大会 大回転競技

西村俊哉 29位、小泉裕介 30位

⑦春季大会 回転競技

西村俊哉 25位、宮村恵介 31位

軟式野球部

①準優勝

決勝戦 前商6-3高崎

③3位 準決勝/高工2-0高崎

⑥1回戦 館林8-1高崎

山岳部

①③団体 9位

⑤予選 個人 12位 内田啓介

弓道部

①予選落ち

⑦西毛地区大会 団体2位 個人4位

上信越大会 個人 原沢政俊 優勝

卓球部

①4回戦 高崎3-2富岡

決勝リーグ進出 4位

③5回戦 高崎1-3前橋東 ベスト8

サッカー部

①4回戦 高崎0-2育英

③4回戦 高崎2-3前橋商

⑦全国高校サッカー選手権群馬大会

準々決勝 高崎0-4前商

バレーボール部

①準決勝 高崎0-2桐商

関東大会出場

②1回戦 高崎1-2関東一高

③決、勝 高崎0-2桐商

硬式野球部

②第47回秋季関東地区高等学校県予選

1回戦 高崎3-0富岡

②第47回春季関東地区高等学校県予選

1回戦 高崎11-3桐工

2回戦 高崎1-11高商

⑦第77回全国高等学校野球選手権県大会

1回戦 高崎1-4中央

ソフトテニス部

①個人 松浦・横澤組 県ベスト8

②個人 松浦・横澤組 県ベスト16

③個人 小坂橋・片貝組 県ベスト8

②個人 小坂橋・片貝組 2回戦

③個人 小坂橋・片貝組 3回戦

高木・藤岡組 4回戦

松浦・横澤組、清水・設楽組、関・黒澤組、永原・大沢組

以上3回戦

県ベスト8



第43回 関東高等学校柔道大会 (平成7年6月・群馬県スポーツセンター)

⑥個人 小板橋・片貝組 5回戦

飯田・清水組、岡本・横澤

組、山口・設楽組 4回戦

松浦・関組、山本・黒澤組、

森野・藤岡組 3回戦

団体 県ベスト8

⑦第29回高崎水曜テニス会

西毛高校招待大会

小板橋・片貝組 優勝

ジュニアの部

富士フィルム賞 岡本雅彦(2-3)

群馬富士カラー賞 中村圭(2-4)

○第8回道のある風景写真コンテスト

(建設省関東地方建設局)

高校の部 銅賞 大島道生(2-2)

○第1回夏の高校野球

フォトコンテスト(朝日広告)

学生の部 推薦 大島道生(2-2)

特選 渡丸真実(1-5)

新聞部

県議会議長賞

吹奏楽部

県コンクール金賞

囲碁部

○第10回関東地区高等学校囲碁選手権

大会(群馬県・5年連続5回目)

団体戦選手 花田 秀一

堀越 学

倉林 貴弘

個人戦選手 牧野 孝広

○第19回全国高校囲碁選手権大会

(東京都市ヶ谷日本棋院・

6年連続6回目)

団体戦選手

松永 典之(1-3)

牧野 孝広(3-8)

花田 秀一(3-7)

個人戦選手 松永 典之(1-3)



学芸部

CUMMURE

写真部

○三浦杯フォトコンテスト

優秀学校賞

○第24回上毛フォトコンテスト

(上毛新聞社)

牧野 孝広(3-8)

(松永・2回戦 牧野・1回戦)

○第19回全国高校総合文化祭(新潟市)

囲碁の部

個人戦 松永 典之(1-3)

団体戦群馬県代表 堀越 学(3-9)

(全国9位)

○第31回全国高等学校将棋

選手権大会群馬県予選

団体戦

田中 彰一(3-3)

花田 秀一(3-7)

倉林 貴弘(3-9)

将棋部

準優勝

翠巒文庫

BOOK

本年度(平成7年10月31日まで)次のような御著書を寄贈して頂きました。

- |               |             |
|---------------|-------------|
| ●著書           | ●著者         |
| 邪馬台国のゆくえ      | 関口 昌春 (61回) |
| 詩集二度目の紫陽花     | 福田 誠 (76回)  |
| 学生が見た ODA     | 神保 謙 (91回)  |
| 秀嶺榛名業に        | 51期還暦記念誌    |
| パプア・ニューギニアの戦い | 斎藤 勲 (23回)  |
| 春の風           | 深瀬 達郎 (39回) |
| 日本人の生活と意識     | 安藤 文夫 (32回) |
| 石油危機とこれからの課題  | 安藤 文夫 (32回) |
| 中国のあしあと       | 安藤 文夫 (32回) |
| 大不況症候群        | 安藤 文夫 (32回) |
| わが師わが友        | 安藤 文夫 (32回) |

- 政治と人生——中曾根康弘 (35回)
- 日蓮にきく——小野 文晧 (66回)
- 法華経の詩——小野 文晧 (66回)
- 昭和法華人列伝——小野 文晧 (66回)
- 群馬にみる人・自然・思想
- 熊倉 浩靖 (70回)
- 源氏物語—愛の可能性(一)
- 吉永 哲郎 (54回)
- 風化と崩壊——千木良雅弘 (72回)
- 人工生命とは何か
- 白石 明彦 (69回)
- ホームレスの現状とその住宅政策
- の課題——梅澤嘉一郎 (60回)
- 元年からの65の手紙
- 浦野 清 (43回)
- 無罪弁論集 I II III
- 高橋 清一 (51回)
- のつけ第18号——高中43会
- 秀嶺榛名業に第7号——高高51期会報
- 90年の吹き——南雲今朝雄 (22回)
- (図書部長 佐藤 照 53回)

# 翠巒祭・高前定期戦

## ●翠巒祭 今回の反省と今後の課題

今年の翠巒祭は二日とも曇り時々小雨という不安定な天候に見舞われた。そのためか、入場者数も例年より少なく、盛り上がりもいまひとつだった。しかし、これは単に天候のせいだけではない。

紅白歌合戦はよくできていたが、中心である展示に「練り」が足りない。文化部にとって発表の場は年に一度の翠巒祭しかないのに、直前の一カ月間ぐらいで前年と同じような内容のものを慌てて仕上げるという部もある。これは文化部が一年中活動している訳ではないという事を考慮すれば納得できるが、やはり前年とは違った新しい企画を考えて欲しい。

ここまで書くとなんて展示団体の責任のように思われるかもしれないが、それは違う。実行委員会にも責任がある。というのは、実行委員会も前年と同じような事しかしていないからだ。自分でやっていて無責任だが、僕はそう感じた。良い所はそのまま続けても構わないかもしれないが、悪い所は改めなければならぬ。もし文化部が現状から脱出できないのなら、展示団体の減

少という事実を見ても、文化部の展示中心という現在の翠巒祭の在り方を改め、実行委員会が中心となって新しい翠巒祭の在り方を再検討する必要があるだろう。

ところで、今回の翠巒祭は悪い所ばかりではなかった。米校者への公開は無かったものの、後夜祭は成功だった。新企画のゲームも好評であったし、最後の校歌斉唱の時には、先生方も生徒会長の呼びかけに添えて一緒に肩を組んでファイヤーストームを開き歌った。

あの時のような高生生の持つエネルギーを当日にどのように生かすかが、今後の課題となるだろう。

(翠巒祭実行委員長 江原秀彰)

## ●定期戦 我が闘争

十五点リードされて迎えた本戦、僕達の気合は十分だった。朝六時三十分に出すことなく到着すると、僕達の気合



圧倒していた。

一般対抗については、高高は苦戦を強いられた。勝利を確信していた陸上と綱引きが0対9で負けてしまいピンチになると、玉入れやバスケの勝利でもちなおすといったようにほとんど五分五分だった。そして勝負は部対抗に持ち越された。

やはり部の高高と言われるように部は圧倒的な強さを見せ快勝し、総合点では逆に十五点差をつけて勝った。

去年の定期戦での反省(一般生徒と実行委員がかみ合っていない(なかった)をい

はいつそう高まり、開会式の「校歌」から閉会式の「富士の白雪」まで終始

い人にやってもらった。そして去年の資料もほとんど使わず、練習方法、運営などを行った。まさに0からのスタートだった。それゆえに苦勞も多かった。へんだったが、そのおかげで一般生徒としっかりかみ合い一般対抗では五分にもっていくことができたのだと思う。これで高高連勝への新しい伝統がスタートする。そして前高も今年の雪辱を期せんと全力でぶつかってくることは間違いないだろう。来年は全ての種目で勝ちこし、記念すべき第五十回高前定期戦に花をそえてほしいと思う。最後に先生方そして千二百人の勇敢な戦士たちに感謝し、OBの皆様にも勝利を報告し、ペンを擱きたいと思う。

(定期戦実行委員長 善如寺 史)

49回高前定期戦 得点表

部対抗		目		一般対抗	
高高	前高	高高	前高	高高	前高
		水	泳	0	9
		網	引	0	9
		ソフト	ボール	6	3
		駅	伝	6	3
		玉	入	9	0
6	0	陸上	競	0	9
6	0	バスケット	ボール	7.5	1.5
6	0	バレー	ボール	5	4
6	0	ソフト	テニス	3	6
6	0	卓	球	7	2
0	6	硬式	野球		
6	0	軟式	野球		
0	6	剣道	道		
6	0	柔道	道		
0	6	空手	道		
0	6	弓	道		
6	0	テニス	ス		
3	3	サッカー			
0	6	ラグビー			
51.0	33.0	小計		43.5	46.5
高高	94.5	総合		79.5	前高

# ●最近の進学状況について

平成七年の大学入試は、現役合格率88・6%で、東大合格者十八名(現十二名・浪六名)、東北大合格者三十名(現二十三名・浪七名)、群大医九名(現五名・浪四名)、慶応大現役三十八名、早稲田大現役三十六名、東京理科

大現役六十七名、に代表されるように、質、量ともに現役の健闘が目立ちました。三年間こつこつと授業に真面目に取り組んだ生徒の努力と、生徒を励まし続けた多くの人達の努力、また自習時間ゼロなど学校をあげての指導の結

晶であると思っております。高高三年間で、思いやりのある、感性豊かな、そして世界的視野を持ち、二十一世紀を担う人材の育成に教職員一丸となって取り組みたいと思っております。(船戸秀道)

進路状況			全日制	内は現役			
	5年	6年	7年		5年	6年	7年
北海道	10(5)	7(6)	7(6)	青山学院	17(8)	12(4)	10(7)
東北	19(16)	29(22)	30(23)	学習院	12(3)	8(6)	4(2)
茨城	2(2)	1(0)	3(1)	慶応	35(19)	50(38)	53(38)
筑波	4(3)	3(2)	7(7)	国際基督教	3(1)		
群馬	38(31)	58(45)	41(32)	芝浦工業	10(7)	11(8)	10(7)
埼玉	12(11)	7(6)	11(8)	上智	18(9)	5(3)	9(0)
千葉	12(8)	7(6)	18(14)	成蹊	3(2)	3(1)	2(1)
東京	10(7)	19(17)	18(12)	中央	45(23)	37(21)	62(51)
東京外語	2(2)	2(2)	3(3)	東京電機	9(3)	4(2)	3(2)
東京工業	3(2)	4(3)	7(4)	東京理科	48(35)	88(63)	97(67)
一橋	5(3)	4(4)	4(3)	東洋	16(6)	25(10)	9(4)
横浜国立	10(8)	12(6)	17(15)	日本	66(42)	94(77)	113(103)
新潟	19(15)	21(15)	11(8)	法政	34(15)	39(22)	33(24)
金沢	9(6)	3(3)	9(8)	明治	56(23)	64(36)	60(52)
信州	1(0)	8(5)	2(1)	明治学院	13(5)	13(5)	16(12)
名古屋	1(1)	1(1)	3(3)	立教	15(5)	11(3)	5(2)
京都	6(3)	4(4)	6(5)	早稲田	43(23)	46(29)	52(36)
高崎経済	21(19)	23(13)	31(27)	同志社	12(4)	12(2)	5(2)
東京都立	4(1)	2(1)	4(4)	立命館	17(2)	25(8)	30(22)
横浜市立	4(1)	8(4)	6(4)				

種別合計		全日制	内は現役	
大学名		5年	6年	7年
A. 国立	立	186(137)	225(165)	222(169)
B. 公立	立	31(22)	40(21)	50(41)
C. 私立	立	695(323)	733(426)	767(578)
A + B + C		912(482)	998(612)	1,039(788)
D. 短大、各種他		1(0)	7(6)	0(0)
総数(延数)		913(482)	1,005(618)	1,039(788)
卒業生数		399	404	401
現役進学者数		282	295	318
現役合格率(合格者数/受験者数 × 100)		71.8%	79.2%	88.6%

新任者		転任退任者	
古川 功校長	↑前橋清陵高校	堀口 康平校長	↓退職
田村 仁教諭(数学)	↑中央高校	波戸場研二教諭	↓退職
塩原 秋雄教諭(英語)	↑藤岡高校	上野 臣吾教諭	↓前橋南高校(教頭)
鶴生川隆之教諭(地歴)	↑前橋高校	田島 亘教諭	↓高崎女子高校
木本 陽子教諭(英語)	↑前橋女子高校	富沢 栄世教諭	↓中央高校
浦野 克彦教諭(国語)	↑桐生工業高校	今井 俊治教諭	↓高崎女子高校
*中嶋 康弘教諭(物・化)	↑洪川工業高校	大谷 法明教諭	↓太田東高校
		*武藤 正美教諭	↓富岡高校

# ●人事異動

# 平成6年度 同窓会経常決算

平成6年度経常会計				平成7年度経常会計予算				
費目	平成6年度予算	平成6年度実収入	備考	費目	平成6年度予算	平成7年度予算	前年比(減▽)	備考
前年度からの繰越金	328,334	328,334		前年度からの繰越金	328,334	521,436	193,102	
入会金	3,100,000	3,137,600	全日制378人、通信制19人	入会金	3,100,000	2,972,000	▽128,000	全日制378人、通信制19人
維持会費	6,500,000	7,342,000		維持会費	6,500,000	7,000,000	500,000	
利息	20,000	43,711		利息	20,000	30,564	10,564	
雑収入	1,000	21,558		雑収入	1,000	1,000	0	
合計	9,949,334	10,873,203		合計	9,949,334	10,525,000	575,666	

費目	平成6年度予算	平成6年度実支出	備考	費目	平成6年度予算	平成7年度予算	前年比(減▽)	備考
会議費	1,000,000	997,513	平成7年総会補助30万他	会議費	1,000,000	1,100,000	100,000	
祝賀費	700,000	524,934	ネクタイピン代等	祝賀費	700,000	700,000	0	
饗別費	300,000	255,000	平成6年転退職員へ	饗別費	300,000	300,000	0	
慶弔費	100,000	66,415	葬儀花輪代等	慶弔費	100,000	100,000	0	
通信印刷費	600,000	661,829	維持会費納入札状、宛名タック代他	通信印刷費	600,000	700,000	100,000	郵便料金等の値上げ
旅費	200,000	63,522	京浜同窓会出席者等	旅費	200,000	200,000	0	
会報発送費	1,700,000	1,421,670	同窓会報発送費	会報発送費	1,700,000	1,700,000	0	
同窓会報費	1,800,000	1,682,874	同窓会報製作料	同窓会報費	1,800,000	1,800,000	0	
事務費	400,000	465,791	人件費、事務用品代他	事務費	400,000	700,000	300,000	人件費上げ 増額400円
同窓会長賞費	100,000	19,770	ガラス盾	同窓会長賞費	100,000	100,000	0	
補助費	600,000	600,000	図書館30万、早稲田体育会30万	補助費	600,000	600,000	0	
100周年準備費	2,000,000	2,046,639	印刷・郵送料・事務用品代他	100周年準備費	2,000,000	2,000,000	0	会議費・運賃・校対費等
雑費	50,000	45,810	維持会費返金等	雑費	50,000	50,000	0	
予備費	399,334	0		予備費	399,334	475,000	75,666	
合計	9,949,334	8,851,767		合計	9,949,334	10,525,000	575,666	

差引残高 2,021,436  
 100周年基金へ 1,500,000  
 次年度への繰越し 521,436

平成6年度 特別会計		
収入の部	支出の部	
繰越金	12,316,831	なし
利息	182,289	
合計	12,499,120	

## 第94回高高同窓会 新年総会へのお誘い

私達65期生は恒例であります、新年総会の当番幹事を迎え、諸先輩方々の御助言、御指導を仰ぎつつ、着々と準備を進めております。

今総会は例年の会場をやむなき事情により他に移す事となり、勝手が違う上、不慣れな事と重なり、皆様方には御迷惑をお掛けしますが御容赦下さいませ、お願い致します。

また、総会後予定しております懇親会では旧交を温め、青春時代に立ち返る楽しい会にしたいと思っております。

この総会の盛り上がりにより、現在準備中の百周年記念事業成功のはずみとするべく、多数の皆様のお出席を私共一同、心より願っております。

期日 平成八年一月二十七日(土)

時間 午後三時より

場所 高崎ホワイトイン(高崎神社) 会費 五千円

△チケットお問い合わせ先▽

〇二七三二一六〇三三九〇・有田之 (第65期生一同)

### ◎事務局だより

◎同窓会は会員各位の納入して下さる二千円の会費で運営されています。同封の振込用紙で納入して下さい。

よろしく願い申し上げます。  
 ◎同窓の皆様で、御住所や勤務先の異動などの変更がございましたら、郵便でご連絡ください。次回の名簿刊行(一九九七年)に生かしたいと存じます。

なお名簿についてのお問い合わせは、「同窓会名簿刊行委員会」(高崎市八千代町二一四一)が郵便で行っています。

### ◎編集後記

同窓の皆様方から多大な御協力をいただき、同窓会報第29号が発刊できましたことをお礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださいましたことに厚く感謝申し上げます。ありがとうございます (本部幹事会)